

一期一会

自律

目標に向かって自分自身を律する

感謝

思いやりや感謝の気持ちをもつ

貢献

将来社会に貢献する態度を養う

2021.10.21 第25号



いよいよ文化発表会

昨年3月に全国一斉の臨時休業になってから約1年半。未だに収束とはいきませんが全国的な広がりも下降傾向になっています。文化発表会の開催に向けては、開催の有無から開催時の形式まで何回も話し合いました。「安心・安全」を第一に、もしウイルスが入り込んでいてもクラスターを発生させないための細かな対応について確認をしたところです。

先週は合唱プレコンクールがあり、全学級の合唱を聴かせてもらいました。仕上がりは5～6割ぐらいいそうです。この1週間の追い込みで最後の仕上げをして本番を迎えるそうです。他にも、意見発表や英語暗唱弁論、総合発表、劇、吹奏楽演奏など23日(土)に向けて準備が進んでいます。



当日はzoom配信も予定しています。どうぞお時間の許すかぎりゆっくりとご覧ください。

～2学期始業式 2学期に頑張りたいこと～

1年B組 北別府琉奈さん

授業を大切にし、自分のためになる学習をして満足のいく結果ができるように努力したい。元気なあいさつで学校を盛り上げ、学校生活をスムーズに送れるようにしたい。自分たちを支えてくれる方に感謝して、思いを行動で伝えたい。

2年B組 黒木琴音さん

私たちの学年は困っているときに助け合える仲のよい学年ですが、反応が薄いという課題がある。また、積極的に行動できる人が少ないという課題もある。先輩方は日常生活でははじめがあり、どんなことにも全力で取り組んでいる。あこがれの先輩方のように私たちも後輩を引っ張っていける学年になりたい。

3年A組 小川來夢さん

個人としては、テストや日々の課題を疎かにせずしっかりと取り組み、力を確実につけていきたい。学年としては、自分をアピールすることはこれから生きていく上で大切な力になるので、もっと積極性をもって自分の意見を伝えられるようにし、自分自身を変える勇気をもってもらいたい。

生徒会 本市天太さん

2学期は目標を意識した生活を送りましょう。全校生徒で1学期の自分を超えましょう。私たち3年生は全力で学校生活に臨みます。皆さんも、文化発表会などの残された行事で「自律・感謝・貢献」を成し得ていきましょう。

「甘える勇気」を育てましょう

日本講演新聞 2850号
子ども家庭教育フォーラム代表
教育・真理カウンセラー 富田富士也

中学2年生の女の子がこんな相談でやってきました。「人と触れ合いたいのに触れ合えない」という悩みでした。

人と触れ合おうとする時に出てくるのが「傷つくリスク」です。そのリスクを避けて、傷つかないことを優先すると、いい縁や出会いは持てません。

その子は言いました。

「私、嫉妬心が強くて、すぐ人を憎んだり恨んだりするんです。そういう醜い自分を見るのが嫌なんです。だから人と話をしたり触れ合ったりするのが怖いんです。みんなが私を見てせせら笑っているように感じるんです」と。

さらに彼女は言いました。

「私、友だちの前を通り過ぎると、必ず心のどこかで言ってるんです、『死ね』って」

人とのつながりが持てない寂しさから、彼女はそう思ってしまうんです。そして「死ね」と言っている自分をまた嫌になるわけです。

彼女はそれを「自分の中にある汚れた心」と言いました。でもね、人間というのは、人を憎んだり恨んだりしながら生きるものです。喜怒哀楽の「喜」「怒」「哀」「楽」はバラバラじゃなくすべてつながっていて、その時々に応じて変化していくものなんです。

そういう「感情のつながり」が見えなくなってしまったこともあって、彼女は自分の感情を素直に出すことができなくなってしまったのです。

感情のつながりを取り戻すためにはどうしたらいいか。

そのために必要なのが「人に甘える」ということです。「助けて。私をひとりにしないで」と言うってことです。

皆さん、甘えられますか。人が孤立した時の最後の命綱、それは学歴でも財産でも名誉でもありません。「私をひとりにしないで」と人に甘えることなのです。

別な表現をすると、それは「素直になること」です。でも素直になるってものすごく勇気が要ります。そのときに背中を押してくれるのが「原風景」であり「還る家」なんです。

人はひとりでは生きていけないから、甘える、素直になる必要があるんです。だから、学力も体力も大事なのですが、もっとこの「甘える勇気」を鍛えなきゃいけないのです。

人に甘えるためには、素直に相手に自分の胸のうちを語らなければなりません。でも、これが簡単じゃないんですね。

幼い頃から親に甘えられなかった人は、人を信じたり甘えたりすることがなかなかできません。そして、相手を信じないことを優先し、孤立してしまうのです。

皆さん、甘えましょう。甘える勇気を育てましょう。そして子どもたちにも、「どうすることもできなくなったら甘えていいんだよ、泣いていいんだよ」と言ってあげましょう。

